



県立広島大学 Prefectural University of Hiroshima

# 地域連携センター報

Vol. **21**

COMMUNITY LIAISON CENTER

平成27年10月30日発行

県立広島大学地域連携センター

〒734-8558 広島県広島市南区宇品東一丁目1番71号 電話082-251-9534 E-mail:renkei@pu-hiroshima.ac.jp

## 三原市チャンネル「いきいき健康ひろば」の番組制作について

看護学科は、ケーブルテレビで放送される三原市チャンネル「いきいき健康ひろば」という番組制作に、平成19年度から携わっています。今年6月に第92回が放送され、今年度中に第100回目の放送を迎えます。この番組は、三原市、三原テレビ放送と連携して制作する毎月1本（約10分）の番組で、健康に関する最新の情報を提供し、市民の健康増進に寄与することを目的としています。毎回、原稿の作成から2回の監修会議を経て放送されるまで、約2ヶ月程度かかりますが、内容を吟味し番組の向上に努めています。



番組では、「ベビーマッサージ」や「生活習慣病の予防」など、子どもから高齢者まで幅広い市民を対象に、健康に役立つテーマを取り上げています。特に、視聴者が興味をもつことができるように、学生や市民にも出演していただいています。「脳の活性化を促す脳トレーニング」という番組では、高齢者サロンに出向き現地で撮影をしました。協力者からは「大学は山の上の遠い存在でした。先生が来てくれる



と大学が身近に感じられます」との言葉をいただき、教員の専門的な知見が市民に役立つことを実感する地域貢献のよい機会になっています。また、学生が出演することは地域の活性化につながると市民からも好評です。今後も市民の声を聞きながら地域に役立つ幅広いテーマでの番組づくりをしていけるよう取り組んでいきたいと思っています。

## 三原キャンパス

MIHARA CAMPUS

### 国際交流

#### 国際学術交流協定校

#### ドイツ・NRWカトリック大学訪問団との交流



7月8日、本学と国際学術交流協定を結んでいるドイツ・NRWカトリック大学から、14名の教職員・学生が保健福祉学部を訪問されました。訪問団の専門領域は、社会福祉、介護、看護です。当日の午後、訪問団と人間福祉学科1年生43名が交流会を行いました。交流会では、ドイツ人1名が人間福祉学科3名ずつの小グループに参加し、14グループに分かれ、英語・ドイツ語でお互いを自己紹介し、日本とドイツの印象、興味あることなどを話し合いました。人間福祉学科のほとんどの学生は、初めてのドイツ人との交流で、必ずしも流暢な英語・ドイツ語を話すことはできませんでしたが、身振り・手振りなどの身体的コミュニケーションで自分の意志を伝えていました。人間福祉学科の学生達は、「ドイツはヨーロッパの遠い国であると思っていたが、身近にドイツ人とサッカー、ビール、社会福祉の話題を語り合うと近い国だと感じた。是非、将来、ドイツへ行ってみたい」と述べていました。一方、ドイツ人の学生達も、「ドイツから遠く離れた言語の異なるアジアの日本で、同じ社会福祉を目指す若い学生達と交流ができたことは素晴らしく、良い思い出を持つことができた」と語っていました。交流会終了後、全員で記念写真を撮り、その後、学生同士で楽しく写真を撮り合っていました。

夕方には、有志による訪問団との懇親会が、食堂で開催されました。保健福祉学部から約30名が参加し、訪問団と楽しいひとときを過ごすことができました。保健福祉学部の教職員・学生のなかには、既にドイツを訪問し、訪問団の教授や学生と面識を持つ者もいて、本学での再会を喜んでいました。また、一部の参加者は、今年、来年とドイツを訪問する予

定で、訪問団にドイツでの案内を依頼していました。訪問団は、保健福祉学部の「おもてなし」に対して、感謝の意味を込めて、ドイツの伝統的な歌を披露してくださいました。2010年に国際学術交流協定が結ばれ、毎年、本学とNRWカトリック大学の教職員・学生が相互訪問をしています。今後もこのような国際学術交流を継続していきたいと、訪問団代表のロブレヒト理事長は語っていました。

(保健福祉学部人間福祉学科 教授 三原 博光)



### 地域貢献

#### キャンパスツアー

7月20日、三原キャンパスでは三原市民の方々に本キャンパスの紹介や案内を行う“キャンパスツアー”を実施しました。

今回は、本学の概要説明、看護学科・作業療法学科の紹介や噴水前での記念撮影、図書館見学、さらに食堂にて昼食体験を行いました。

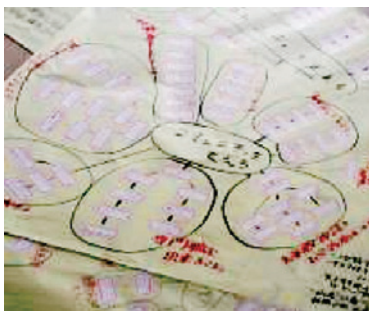
参加者からは、「初めて学内に入り、静かで設備も整っていて、とても良い環境で学生が勉強できることが凄く良い」など、沢山の感想が寄せられました。



## 公開講座

### 「KJ法を使ったワークショップを学ぶ」

7月4日サテライトキャンパスひろしま、7月5日三原キャンパスにて公開講座を開催しました。KJ法はワークショップやブレインストーミングなどに応用され、活用されています。民族地理学者である川喜田二郎氏によって草案された発想法です。書齋科学や実験科学とは異なり、フィールドで集めた(取材した)データをまとめていく「野外科学」といわれ、実際に観察したこと、聞いたことなどをまとめていく現場の科学とも言うべき方法です。今回は、KJ法の中でも特に、テーマに沿って参加者がディスカッションし、アイデアを発散させるパルス討論と呼ばれるブレインストーミングの1つの方法と、そのまとめ方として探検ネットと呼ばれる図解化までを体験してもらいました。看護師、主任介護支援専門員、経営者、精神保健福祉士、社会福祉士、事務職、公務員など様々な分野の方22名が参加されました。数名ずつのグループに分かれ、1



つのテーマに沿って活発にディスカッションをし、生まれたデータからKJラベルを作成し、探検ネットの図解化までを完成しました。

(保健福祉学部人間福祉学科 准教授 田中 聡子)

## 研究紹介

### パパ・ママと共に創る育児講座の提案

保健福祉学部助産学専攻科 准教授 小 山 里 織

育児講座を“共に創る”とは、参加者が父親と母親に分れ、日々の育児をとおして感じていることを、自由に語り合い、その中から子育ての楽しさを発見していくという意味です。育児に必要な情報やスキルを、助産師が指導するという、従来から行われてきた講義形式の講座ではなく、参加者も育児講座を創る一員となるのです。

2010年、厚生労働省が開始したイクメンプロジェクトの一環として、近年「父親向けの家庭教育に関する講座」や、「父親を対象とした育児講座」が各地で開催されています。しかし、それらの多くは、母親をサポートする立場での父親の役割に焦点を当て

たプログラム内容となっています。それでは、子育ての主体は母親のままで、父親は、第2の養育者であるという性別役割分業を促すことにつながると感じます。イクメンプロジェクトが目指す“夫婦で共に育児をすること”を目的とするのであれば、父親と母親が育児についてどのように捉えているのか。特に、これまであまり焦点が当てられなかった父親の意見に、より耳を傾けたプログラム内容にする必要があると考えます。

標記の講座は、妊娠中期から育児期(子どもの年齢1歳以下)までの夫婦を対象に、数回にわたり実施する予定です。これらの講座では、前半に育児の模擬体験(オムツ交換、ベビーマッサージ、親子遊びなど)をし、後半は、育児について“フリートーク”してもらいます。日頃、育児について話をする場や仲間が少ない父親同士が、自由に語り、情報交換をします。もちろん、母親同士も日々育児で感じていることや、悩みを母親同士で語り情報交換します。最終的に、それぞれで語られた内容をもとに、父親と母親が必要とする内容を盛り込んだ、これまでにないタイプの育児プログラムの講座を提案することを目的としています。

ちなみに掲載の写真は、3月に開催した同趣旨の講座「プレママ・プレパパのためのマタニティーセミナー」の一部です。目下、育児中の皆様、育児についての“フリートーク”に参加なさいませんか。興味のある方、ご連絡をお待ちしています。



### ◇◇◇ シンポジウムのご案内 ◇◇◇

#### 第13回脳をみるシンポジウム in 三原

〔日 時〕平成28年2月6日(土)

〔場 所〕三原リージョンプラザ文化ホール  
(三原市円一町2-1-1)

〔対 象〕どなたでも参加できます

〔参加費〕無料

# 広島キャンパス

HIROSHIMA CAMPUS

## 地域連携

### 〈江田島市〉

#### えたじま「いいね！コンテスト」 in 牡蠣祭り

平成26年度の江田島市との地域戦略協働プロジェクト「学生参加型スマートフォンによる魅力ある観光情報収集とその発信方法について」の一環として、2月1日に江田島市小用みなと公園で開催された「江田島市牡蠣祭り」にて、本プロジェクトの説明及び参加の呼びかけを行いました。



学生がコンテスト参加を勧誘

本プロジェクトの下では、スマートフォン等を用いた江田島の観光情報発信を行うことをテーマに、一般市民や観光客が手軽に江田島の魅力を発信するものとなっています。江田島市内の魅力的な場所や建物等を撮影しフェイスブックに投稿することで情報共有とPRを行うことをめざしています。今回の牡蠣祭りでも、参加した学生が自身のスマートフォン等を用いて祭りの様子や会場近隣の地区内での情報発信を行いました。



「いいね！コンテスト」の説明

本プロジェクトではこうした取り組みを推進するため、期間限定（3月15日まで）で投稿された写真に押された“いいね！”の人数をカウントし、その人数の多い方には賞品を進呈するという「いいね！コンテスト」を開催しました。このコンテストの紹介、参加募集を行う目的で牡蠣祭りに参加しました。



牡蠣祭り会場の様子

## 公開講座

### 「憲法を学ぶ～憲法記念日にちなんで～」

今年度初めての試みとして、4月と5月に憲法に関する講座を開講しました。憲法の役割、存在理由など、憲法の基本を学び、さらに、憲法改正をはじめと

する、今日の問題についても考えました。受講者からは「ぜひ、またタイムリーな内容を学問的観点からわかりやすく教えてほしい」、「むずかしい国政問題をあえて取り上げてもらい、基礎がよくわかった」などの感想が寄せられました。



### 「『毛利家の国宝・至宝展』に寄せて」

ひろしま美術館で5月に開催された特別展にあわせて、国宝・重要文化財を含む名品の数々を、歴史と美術の二つの視点から紹介しました。歴史の面では、毛利元就・隆元と大内文化の関わりを自筆書状から紹介し、美術の面では、雪舟から狩野派に至るまでの山水画の世界を読み解きました。

### 「150年目の『不思議の国のアリス』を原書で読む」

今年は『不思議の国のアリス』出版150周年にあたり、アリスはなぜウサギ穴に落ちるのか、なぜ体の大きさが変わるのか、お茶会の論理のおかしさは何なのか、また、続編『鏡の国のアリス』では何がどう逆転しているのかなど、春と秋に分けて4回にわたり、英語で『アリス』を読みました。講座終了後に熱心なアリス・ファンの方々が情報交換で盛り上がる場面もありました。

### 「『もの』から探る日本中世の『ころ』」

平成23年度に始まった広島県立図書館との連携公開講座の今年のテーマは日本中世でした。伝統的な日本文化の基盤が形づくられた中世の「ころ」を、考古学、民俗、文学、芸能の分野から探りました。定員の3倍近い申込があり、人気の高い講座となりました。

### 「シネマ世界めぐり～アメリカ・インド編～」

今年で2回目となる「シネマめぐり」講座はアメリカとインドの映画がテーマでした。映画の場面を鑑賞しながら、歴史的・社会的背景、文化多元主義などについて考えました。「映画は多様な人間の集合体を映し出していると思った」、「久々に映画が見たくなった」などの感想がありました。



## 研究紹介

### 現代アメリカ文学をとらえて日本の今をみる

人間文化学部国際文化学科 講師 栗原 武士

すぐれた小説を読んだとき、「なぜ私はこの作品に惹きつけられるのか」と自問したことはありませんか？ あるいは、その作品の良さを他人に言葉で伝えようとして、うまく伝わらずにもどかしい思いをしたことは？ 結局、面倒で考えるのをやめてしまった…なんて人も多いと思います。



文学研究者とは、その面倒な作業をしつこくやり抜く人々だといっていいかもしれません。作品の良さを伝えるためなら、ギリシャ哲学、現代社会学、歴史学…なんだって使います。マルクス主義、フェミニズム、帝国主義も大歓迎。量子力学や統計学といった、いわゆる「理系」の理論だって、節操なく拝借してしまいます。

私自身は、1980年代のアメリカ短編小説を、「労働者階級とはどういう人々か」という、社会学的な視点から考察しています。どうして彼らはリッチじゃない自分を憐れんでしまうのか。経済的不平等はどうして生じるのか。労働するとはどういうことか…などなど。そこには、私たちが生きる今の日本に通ずる「何か」が潜んでいるような気がします。それは何なのか？ それを言葉にしてみなさんに伝えるために、私は今日も研究書を開き、メモを取り、1980年代アメリカに思いを馳せるのです。

### 事業環境の変化と予算管理の関係に関する研究

経営情報学部経営学科 准教授 足立 洋

私は会計学の研究をしています。特に近年関心を持っているのは、予算についての研究です。私はこれまで、日本のいくつかの企業にインタビューに向き、予算のあり方の組織や人の動機づけへの影響について調査してきました。



会社組織がいくつもの部署から成っている場合には、多くの場合各部署に毎年度初めに予算が設定されます。各部署ではこの予算を意識して販売や仕入れなどの業務が進められます。1年が終わると、予算をどれだけ達成されたかは、多かれ少なかれ、各部署やその責任者の評価の一部となります。

問題は、政治状況や景気など会社の環境が激変した場合です。環境が激変すれば、予算が見直されることもあります。近年では毎月予算を見直す会社の事例も報告されています。その一方では、予算を見直せば年度末の評価の基準をどうするのかという問題も生じます。

私が今までに調査した限りでは、企業によってはこの問題への対応策として、雇用制度や人事評価制度や、経営者とマネージャーとのコミュニケーションのあり方を工夫するなど、多様な要素がうまく組み合わされているようです。いずれはこれらの研究成果を体系化し、何らかの形で地域経済に貢献できればと考えています。

### 三次ミュージアムツアー

本学は県内11の美術館・博物館のキャンパスメンバーズ制度に加入しています。年会費を納めることで学生と教職員が無料観覧できるこの制度を活用し、広島キャンパスでは三次の美術館と博物館を訪れるミュージアムツアーを行いました。

実施時期は学生の関心にあわせて夏の企画展を選び、7月に奥田元宋・小由女美術館の「島田ゆか絵本原画展」と広島県立歴史民俗資料館の「海洋堂フィギュア展」を観覧しました。常設

展や風土記の丘も自由に見学し、歴史や芸術文化にゆっくりと触れ、心豊かな一日を送ることができました。

昨年に引き続き二度目となった三次ミュージアムツアー、来年度も実施の予定です。



# 庄原キャンパス

SHOBARA CAMPUS

## 産学官連携総会

### 「しょうばら産学官連携推進機構」

当機構の本年度総会が5月26日かんぼの郷庄原にて開催されました。約30名の出席者のもと、すべての議案について原案どおり承認されました。今年度の事業方針は、昨年度同様マッチング事業を重点的に進めるとともに、金融機関との連携を強化し、より成果の創出を意識した事業展開を図ります。また、プロジェクト事業では、新たに「しょうばら産学官連携セミナー」を開催すること等により、新たなマッチングにつなげるため企業と大学の接点を創出することを目的とした事業を実施します。



### 「三次イノベーション会議」

6月8日に三次市役所にて三次イノベーション会議総会を開催しました。本会議は三次市の産学官連携推進を目的に、三次市、三次商工会議所、三次広域商工会、本学が構成員となっています。総会では議案について原案どおり承認され、例年行っている本学教員紹介、大学共同研究助成等に加え、今年度は産業活性化の研究プロジェクト、活動の情報公開を積極的に行っていく予定です。またしょうばら産学官連携推進機構との連携も一層深めていくことを確認しました。

## 庄原市民公開講座

庄原市教育委員会と本学が共催する県立広島大学市民公開講座「高齢期を前に考えよう生活と保健福祉制度」が6月23日から7月7日の期間に2



人の講師によって4回実施されました。

回	講座名	講師
1	高齢期における保健福祉制度	保健福祉学部 教授 住居 広 士
2	高齢期の食生活と食事のケア	保健福祉学部 准教授 國定 美 香
3	認知症高齢者との関わりとケア	保健福祉学部 准教授 國定 美 香
4	高齢期に備える社会資源	保健福祉学部 教授 住居 広 士

内容は、高齢期を迎えたとき、日々の生活やもしもの時にどうするかを考える一助となるものでした。延べ参加人数は93名で、22名が修了証書を授与されました。後期には身の回りの安全性を考える講座を実施する予定です。

## 公開講座

本学主催の公開講座「成分分析の基本的考え方とその応用」が7月21日に本学教員2名を講師として開催されました。地域の素材を生かした地域振興、商品開発は近年盛んです。そのサポートと、本年度から始まった新しい食品の表示制度の理解を深めるために今回の開催となりました。13名に修了証書が授与されました。



回	講座名	講師
1	成分分析を依頼する前に！ 成分分析の基本事項	生命環境学部 教授 西村 和之
2	成分分析のその後 商品化・宣伝利用の実例から	生命環境学部 准教授 吉野 智之

## 地域連携

### 庄原市における「学生と地域をつなぐ」取組について

3月2日に庄原グランドホテルで、学生と地域をつなぐ新たな取組に向けて、木山耕三庄原市長、森信正敏広島みどり信用金庫理事長、中村健一本学理事長・学長による鼎談が、西村和之本学庄原地域連携センター長の司会で行われました。鼎談では、学生による地域貢献活動を大学教育の一環として位置付けたいと考えているものの、学生の緊急事態（事故等）の対応や経費負担など、学生を地域に送り出し、地域や企業と結びつけるために乗り越えなければならない課題があることを本学側から伝えました。その点を明確にしたうえで、学生や大学が地域・企業と結びつくための「出会いの場」の設定や、学生の地域活動への参加を促進するための方法を発案し合い、より一層の結びつきが生み出せる環境の整備について協力していくこととしました。



## 研究紹介

## 消化管免疫の重要性とその応用研究

生命環境学部生命科学科 教授 稲垣 匡子



消化管は、食物の消化・吸収という「取り込み」の働きだけでなく、病原性微生物や抗原を「侵入阻止・排除」という免疫的に重要な役割を担っています。成人の消化管粘膜の表面積はテニスコート1.5面分に相当します。そのような広大な場所が、常に食物や常在菌さらに病原性微生物など様々な抗原に曝されており、それらに対応するため消化管では「取り込み」と「排除」の相反する機能を使い分けます。これは他の組織にはない特殊な消化管免疫機構によって行われます。胃がんや大腸炎などの消化器疾患は消化管免疫の異常により起こり、患者数は増加の一途をたどっていますが、その原因の1つに、高塩分・高脂肪食をはじめ栄養の偏りが挙げられます。私の研究室では、これらの消化器疾患を引き起こす可能性のある食餌成分やホルモンに着目し、消化管免疫を構成する細胞がどのように変化し病態発症に至るのかを調べています。病態解析には、動物モデルと試験管レベルの両方のアプローチが必要です。私は遺伝子改変および薬剤あるいは食餌誘導モデルマウスを作製し、免疫学的、組織学的解析、常在菌解析などを用い、胃がんや腸炎の発症機序を解明するとともに、これらの疾患の予防を目的とした食品開発につながる研究を展開したいと考えています。

## 植物細胞組織培養と植物機能改変技術の深化を目指す

生命環境学部生命科学科 教授 荻田 信二郎



当研究室では、全能性（ゼんのうせい）を多様かつ合理的に発現させるための植物細胞工学研究を進めています。全能性とは、植物の細胞や組織が元の完全な植物体を形成し得る性質ですが、この全能性を、私たちの活用している様々な植物種で制御できれば、植物の資源利用に大いに役立ちます。実際に国内の大学や研究所からは対象植物の生長・生理に関する原理原則の解明、製薬や化学関連企業からは有用生物活性を示す植物二次代謝産物の生産、また今後も飛躍が見込まれるアジア圏の各国の大学からは有用・希少植物の増殖や育種というように、様々な要望を受けています。植物細胞・組織培養は、全能性の制御を可能にできる技術の一つとして確立されてきましたが、未だに取り扱いが非常に難しい実用植物も数多く存在します。したがって、この技術を現代のニーズに合わせて深化させ、様々な地域的・国際的な植物活用を目指した研究課題にフレキシブルに対応できる人材を広島の地から輩出したいと思います。よろしくお願ひします。

地域連携 **どんぐりカフェ in 三軒茶屋②**

【3パート報告の第2回目】

（承前）お昼過ぎには限定30食はすでに完売で、実施したアンケートのコメントでも「とてもおいしい」との声が多く寄せられました。また、古代米かしわ餅は甘さ控えめでえごま茶にぴったりでした。更に今回の企画では、彼女たちも予想だになかったことを色々勉強・経験する機会ともなったようで、正午頃は注文が殺到してあたふたする場面にも遭遇しましたが、最後まで責任をもってこの企画をやり遂げることができました。当日は五月晴れで、庄原を散策するために広島市内や島根・岡山県から訪れた観光客も多く、飲み物だけを求めて来店する方々

に対応できるカフェメニューが少し不十分だったことなど、色々な課題もあきらかになりました。でも彼女らは座学だけでは学べないものを得ることができたと思います。次回への教訓と改善に向けての課題がクリアになったことでしょう。それから、庄原を訪れる旅行者が意外に多いことが発見で、彼女らの企画の先見性と行動力に感心するばかりでした。



## 『県立広島大学産学官連携商品集』の紹介

本学は、地域の活性化に積極的に貢献する地域連携の一環として、産学官連携商品の開発に力を入れています。「県立広島大学産学官連携商品集」は、平成19年以降、本学が地域の企業や自治体等と協力して開発した産学官連携商品を冊子として取りまとめたものです。平成27年3月に、新たに生み出された産学官連携商品を加え、第2版として改訂しました。是非、ご覧ください。

掲載している商品は、食品部門、介護福祉部門、生命環境部門の3つのカテゴリーに分類しています。下の表は、各カテゴリーの商品において本学が果たした役割をまとめたものです。

カテゴリー	本学が果たした役割
食品部門	新たな製造方法・栽培方法の考案、栄養面の指導、有効な機能性成分を分析することで食品の商品化を支援。
介護福祉部門	製作の技術指導や測定機器による機能性の効果を検証することで介護福祉商品の商品化を支援。コーポレーションパルスター(株)と共同開発した「むくみ対策靴下」(一般医療機器)では、広島県安芸津病院と連携して臨床試験を行い、その機能性の効果を検証。
生命環境部門	バイオ技術、化学技術、工学技術を応用した装置を考案することで生命環境分野の装置やサービスの商品化を支援。



「県立広島大学産学官連携商品集」は、次のURLでもご覧いただけます。

<http://www.pu-hiroshima.ac.jp/uploaded/attachment/7612.pdf>

地域連携センター報は本学ホームページにバックナンバーを掲載していますので、ご活用ください。地域連携センターの活動についても、あわせてご覧ください。

<http://www.pu-hiroshima.ac.jp/soshiki/renkei/>

### 編集後記

センター報第21号をお届けします。本号では、三原市と本学の連携事業「いきいき健康ひろば」が今年度中に100回目の放送を迎えることから、番組製作の様子を紹介いたします。今年度前期のトピックスとして、各キャンパスの国際交流、産学官連携、地域連携、公開講座の報告、研究者紹介なども載せています。また、「県立広島大学産学官連携商品集」改訂版の紹介もしています。これからも地域に開かれた大学として様々な事業に取り組んでまいりますので、引き続き本学の活動にご支援、ご協力いただきますようお願いいたします。(F.K)

### 編集発行

県立広島大学地域連携センター[本号編集担当]  
〒734-8558 広島県広島市南区宇品東一丁目1番71号  
電話(082)251-9534 / E-mail: renkei@pu-hiroshima.ac.jp  
<http://www.pu-hiroshima.ac.jp/soshiki/renkei/>

### 各キャンパス問合せ先

県立広島大学庄原地域連携センター  
〒727-0023 広島県庄原市七塚町562番地  
電話(0824)74-1704 / E-mail: gakuju@pu-hiroshima.ac.jp

県立広島大学三原地域連携センター  
〒723-0053 広島県三原市学園町1番1号  
電話(0848)60-1200 / E-mail: mrenkei@pu-hiroshima.ac.jp